フランチャイズビジネスの今と未来を考える

［フランチャイズエイジ］隔月刊

Franchise Age

11 2025 November

特集

2024年度 JFAフランチャイズチェーン統計調査 結果報告

COVERSTORY

クリーン&リユース リースキン

リースキン(株式会社日本ドライ 千葉支店)
〒263-0005
千葉県千葉市稲毛区長沼町55-5
TEL:043-250-6521 FAX:043-258-8227

ドライクリーニングの会社として創業し、現在では、環境衛生や福祉など、幅広いサービスを提供している日本ドライ。貸し寝具事業からスタートし、「清潔と健康」をテーマにさまざまな事業展開をしているトーカイ。今号は、リースキン事業において50年以上ともに歩み、フランチャイジーとフランチャイザーを超えた関係を築いた2社にお話しを伺いました。

50年以上続く、信頼関係

「リースキン」のフランチャイザーであるトーカイにとって、日本ドライはリースキン事業設立に携わった大切なパートナーです。1960年代後半、トーカイの創業者である小野木三夫氏が、ダストコントロール*事業を始める際、全国展開を目指していたことから、当時クリーニング工場を運営していた会社に声をかけました。

その中で経営理念、事業内容、将来性などに感銘を受けた会社が出資し、日本リースキンが発足。37社の総代理店にてフランチャイズによるリースキンの全国展開がスタートしました。そのうちの1社が日本ドライでした。

その後、トーカイが日本リースキンを吸収合併。2社の関係は、ここからフランチャイジーとフランチャイザーの関係に変化しましたが、日本ドライは、代理店への商品供給や指導などを行う地方本部(サブフランチャイザー)としての重要な役割を担っています。

日本ドライにとって、現在のトーカイはどのような存在なのでしょうか。「単なる仕入れ先という関係ではなく、本部として代理店への教育やアドバイス、マニュアルの提供、またサービスの開発など、さまざまなサポートをしていただいています。また、長い歴史のある関係ということもあり、踏み込んだ提案も双方向でできるなど、とても良いお付き合いをさせていただいています」(藤村副本部長)。

お客さまの「お困りごと」に応える

「リースキン」は、昨今、マットやモップといった事業展開に加えて、新たな取り組みを始めています。それが、女性の不安に寄り添うサービス「ルーナスサポートZERO」です。近年の「女性の健康課題」「生理の貧困」に対する社会的な関心の高まりを受けて、自動開閉式サニタリーボックス「ルーナス」に生理用品と生理用品配布ボックスである「ルーナスサポートZERO」をセットにしたサービスの提供を始めました。きっかけはある大学からの「限られた予算を生理で困っている学生のために使いたい」という要望でした。

そして、コロナ禍で顕在化した「生理の貧困」問題もあり、大学での導入を中心に拡大。現在では企業における従業員満足度向上を目的とした導入や飲食店での来店者向けサービスとしても活用されています。「この取り組みをはじめとするサービスの拡販には、日本ドライさんを含めた地方本部の力がとても大きいです。毎日お客さまと向き合って、真摯にしっかりとお客さまのお困りごとを知り、解決する。どうしたらお客さまのためになるかを考え、努力してきたからこそ、社会貢献にもつながるワンランク上のサービスが自然に生まれたと思います」(飯野課長)。

リースキン事業の立ち上げに深く関わり、「お客さまへのサービスを通じて社会貢献する企業」の実現を目指してきた日本ドライ。長年にわたり、フランチャイザーとフランチャイジーの関係を超えて、ともに歩んできたトーカイ。清潔を守り、健康を支える50年以上続く両社の物語は、次世代に向けて今も続いています。

*ホコリを舞い上げずにホコリを取る清掃用具(マット・モップ)。

お客さまへ届けるマットを準備する松本支店長

東日本エリア代理店会議での故本田会長(日本ドライ)

❶ルーナスサポートZERO と ❷ルーナス

■表紙写真
●(左から)藤村憲宏副本部長(株式会社日本ドライ)、梶本大介課長(株式会社日本ドライ)、安倍慶子課長(株式会社日本ドライ)、松本武支店長(株式会社日本ドライ)、飯野秀治課長(株式会社トーカイ)